

芦屋の産業

打出焼 芦屋の代表的な特産品に打出焼があります。明治の中ごろ、斎藤幾多氏が打出の土に着目してお庭焼をはじめました。明治42年には、打出丘陵に登窯を築いて「打出焼」と称し、仁清の流れを汲む阪口砂山氏(初代)が継承し、茶器や花器などの洗い作風が京阪神の人びとに愛用されました。

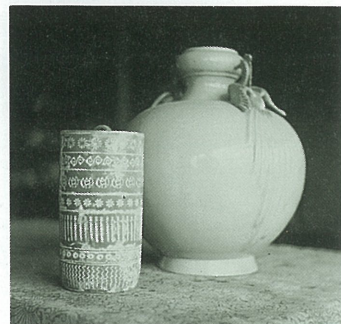
戦中戦後の不況のなか、2代目阪口淳氏が窯元を継承し、その普及に努められましたが、昭和40年ごろから製作が中止となりました。



「打出焼」の作業場



打出焼の看板



くし工場

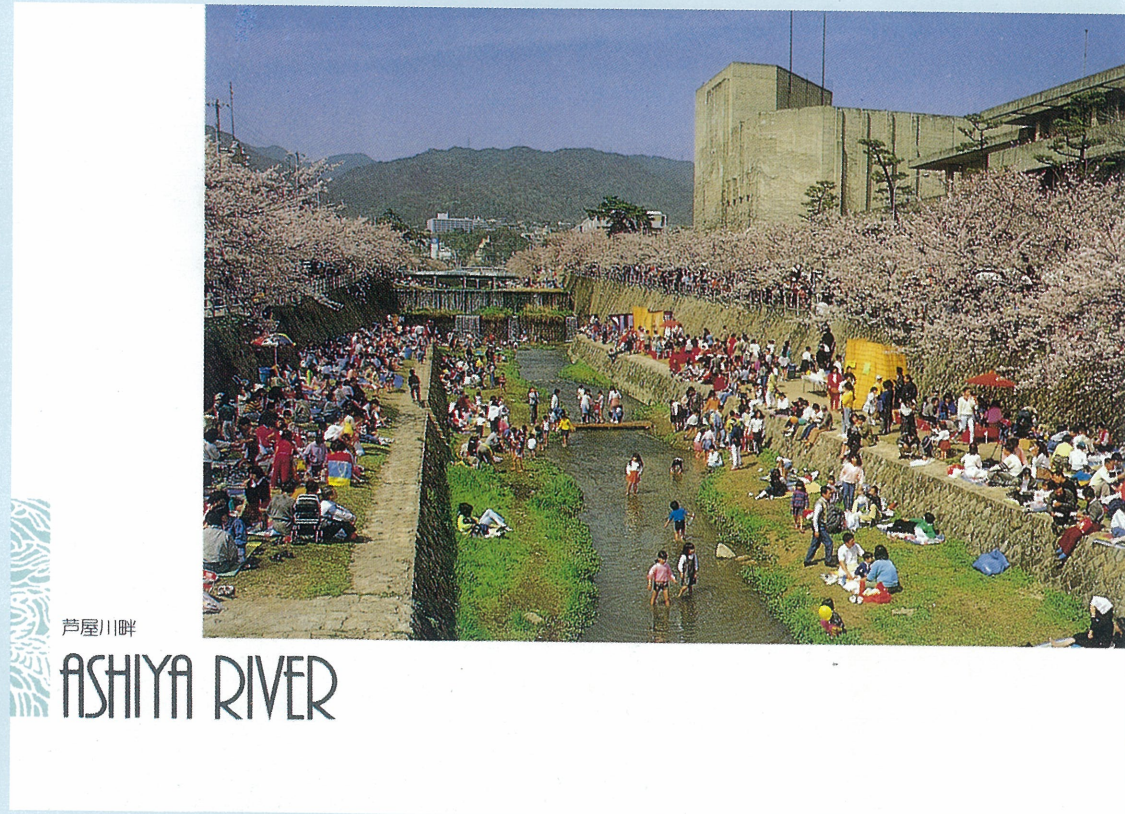
製櫛(くし) 明治35年創業の西田製櫛所の櫛は、芦屋の特産品として知られ、全国に販売、また外国へ輸出されました。

戦後は、とくに牛角、ベッコウ櫛のほか、ハードラバー(硬質ゴム)を原料とする櫛に成功し、ドイツ製品にまさる良質のものを製造したことで知られました。

芦屋今むかし

芦屋川畔

芦屋の自然景観を代表する芦屋川畔は、物語や文学の舞台にもなり、緑と住宅と文化施設のたたずまいは、市民のこよなき散策の地として親しまれています。



芦屋の今と昔のようすの変化を新芦屋十景をもとにおいかけました。



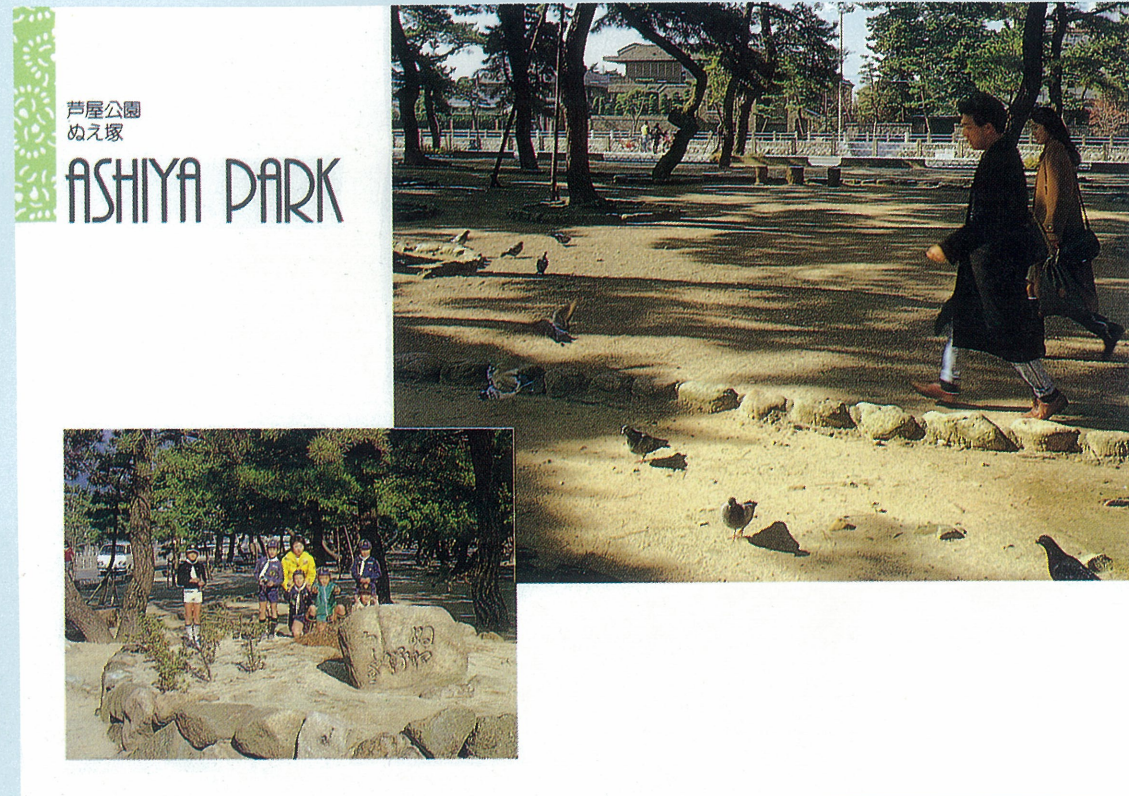
大正時代



大正時代

芦屋公園

芦屋川に沿って国道43号のすぐ南に広がる松林の公園。「市木」のクロマツの姿が美しく、その数百本の松が作り出す木陰は市民のこのうえないオアシスとなっています。



大正末期



大正末期

奥池と芦有道路の景観

六甲山の緑をうつす奥池は、海拔500メートルの高所にあり、周辺の大自然は、野鳥や植物の宝庫です。芦有道路は、道路に沿って展開する溪谷美や大阪湾の遠望にすばらしいものがあります。



奥池
猿丸安時頌徳碑

OKUIKE POND &
TOLL HIGHWAY



昭和初期



昭和40年ごろ